

登録コード	L1133300	開講年度	2026	
担当教員	篠原 成彦	副担当		
授業科目	哲学・思想論特論Ⅲ			
英文授業名	Philosophy Ⅲ			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 木曜・4時限
講義室	人文第4講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ			
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力		⇔	タブロー法の技術を身につけ、さまざまな推論の妥当性／非妥当性を判定できるようになる。さらにその理論的根拠を理解する。
	【2022年度以前カリ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー		⇔	論理学のさまざまな方法論と証明戦略についての知識を培うことで、理論的な言説の創造性を理解できるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	タブロー法の技術を身につけ、さまざまな推論の妥当性／非妥当性を判定できるようになる。さらにその理論的根拠を理解する。
	【2023年度以降カリ対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】		⇔	論理学のさまざまな方法論と証明戦略についての知識を培うことで、理論的な言説の創造性を理解できるようになる。
授業で学べる「テーマ」	キャリア			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	[1] 推論・論証が論理的に適切な仕方で行なわれているか否かを判定する技術と、[2] 論理学の方法論と戦略についての知識を培います。これらによって、[a] さまざまな推論・論証が論理的に妥当であるか否かを判断できるようになり、さらに[b] 理詰めで創造的な思考とはどのようなものであるかが解ります。			
授業計画	第1回 イントロダクション（拡張的推論と演繹） 第2回 真理値表と推論の論理的妥当性 第3回 演繹的推論の遂行：自然演繹 課題[1]の出題 第4回 論理結合子の相互関係と「ならば」の問題 課題[2]の出題 第5回 演繹的推論の評価：タブロー法 課題[3]の出題 第6回 タブロー法（命題論理）を使いこなす 課題[4]の出題 第7回 量子化と命題関数 課題[5]の出題 第8回 多重量化 課題[6]の出題 第9回 量子子に関する4つの規則 課題[7]の出題 第10回 タブロー法（述語論理）を使いこなす 課題[8]の出題 第11回 同一性記号‘＝’に関する2つの規則 課題[9]の出題 第12回 関数定項・述語変項・関数変項 課題[10]の出題 第13回 第一階述語論理の完全性 課題[11]の出題 第14回 第一階述語論理の決定不可能性 課題[12]の出題 第15回 第二階述語論理の不完全性／授業アンケート 課題[13]の出題			
成績評価の方法	第3回以降は毎回課題を設け、その結果を集計して成績を決定します。期末試験は行いません。			
成績評価の基準	講義で扱った事柄について、全般に際だって深い理解が得られていれば「卓越している」、いくぶん高度な問いにも大半は的確に答えられるだけの理解が得られていれば「かなり上にある」、いくぶん高度な問いにもある程度は的確に答えられるだけの理解が得られていれば「やや上にある」、基本レベルの問いの大半は的確に答えられるだけの理解が得られていれば「目標の水準にある」と判断します。			
事前事後学習の内容	課題への取り組みを通じて毎回の内容を復習し、さらに次の回で講義される内容を事前に確認しておきましょう。			
履修上の注意	欠席した場合は、必ず資料を用いて理解を補っておきましょう。			
質問、相談への対応	授業終了後、時間があればその場で質問に応じます。また、木曜日の12:10から13:00までをオフィスアワーとします。来室の際は事前に必ずeメール（nshinoi@shinshu-u.ac.jp まで）などで連絡してください。			
教科書	eALPSを用いてPDF資料を配布します。			
参考書	戸田山和久『論理学を作る』（名古屋大学出版会）			